

飯館村を形つくる個性豊かな20行政区を連載で紹介します

2区 深谷行政区 vol.2

地区を貫く県道12号原町川俣線沿いに農地が広がり、それを縁取るように住宅が連なる深谷地区。農業が盛んで、住民活動も活発な地域です。

地区の東端に位置する「作見の井戸」は、寒の期間に水深を測り、作柄を占う井戸。伝承では江戸時代から存在し、昭和55年に地区の有志が、鳥居や祠を設けて整備しました。また、「村民の森あいの沢」は、かつての人々が石を切り出し水路や林道を築いた場所。その環境を活かして整備され、昭和54年に開園しました。キャンプ場、民家園、宿泊体験館きこり、あいの浮き橋、愛の句碑などが点在する広大な公園です。近隣に、平成19年に直売所としてオープンした「もりの駅まごころ」も、優れた農産品が人気を博しまし



震災前は的中率の高さがメディアでも取り上げられた「作見の井戸」。(平成19年1月)



長年、幼稚園のもちつき会に協力。全村避難中、仮設幼稚園にて。(平成26年12月)



大切な農地が深谷復興拠点エリアに活かされました。(令和4年)



美しい田園風景が復活。左上には解体前の相農飯館校。(令和6年)

深谷行政区(2区)
区民数247人(令和8年5月1日現在/住基人口)

昨年から交流事業を拡大しました。区の皆さんと集まりパークゴルフとバーベキューを楽しんでいます。若い世代の皆さんにもできるだけ参加をしてもらって、意見を活発に取り入れていきたいですね。現在造成されている産業団地に働く場所ができて、若い人が増加することも期待しています。また、飯館村振興公社が担い手となり、地区内全ての水田で農業が再開されました。緑豊かな田園風景が、さらに広がります。



齋藤照吉区長



平成

湖畔の桜が舞う中で開催された「第16回スポーツ少年団対抗はやま湖駅伝競走大会」。(平成18年)



令和

花火大会は避難指示が解除された平成29年に復活しました。写真は令和7年の「はやま湖まつり」。

はやま湖の今と昔

さまざまな場所や暮らしの変化を見てみよう。

いいたて今昔物語

70周年 村制施行



昭和



平成

昭和58年建立の真野ダム記念碑。ダム建設時の思いが碑文に綴られています。真野ダムは平成3年6月に完成。60戸が水没し移転または離村となりました。ダム建設の適地であるとして3度目のダム計画が浮上したのは昭和45年のこと。住民は反対運動の後に、「真野ダム対策同盟会」を組織して県との交渉を進め、昭和52年に協定書、55年に補償協定書に調印しました。昭和56年には水没移転者離村式が行われ、人々は子ども達の歌「ダムに沈む大倉の里によせて」に涙し、別れを惜しまました。多目的ダム「真野ダム」は、昭和60年に本体工事が始まり、平成3年に完成。周辺に体育館や橋が整備され、ダム湖は「はやま湖」と命名されました。湖畔に桜が植えられ、「森と湖のまつり」「スポーツ少年団対抗はやま湖駅伝競走大会」「はやま湖花火大会」など多彩なイベントが催され、地域に愛される名所となっていきました。



ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

今年度も飯館村図書ボランティアの方々のご協力をいただき、交流センター「ふれ愛館」内の図書整理や季節に合わせた壁面の掲示などを行っています。また、こども園や学校でのおはなし会、図書貸し出しの要請があった各地区のサロンへの貸し出し、いいたてクリニックへの貸し出しなどを行いつつ、皆さんが本に触れる機会が少しでも増えるように取り組んでいきたいと思えます。ぜひ、交流センター「ふれ愛館」にも足を運んでみてください。

お詫びと訂正
広報いいたて4月号P12と同5月号P6に掲載した第7次総合振興計画の文言に一部誤りがありました。お詫びして訂正します。

正 地域福祉 ともに気づき、支え合う地域福祉の実現を目指します